

えぼっく

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

創刊号通巻1号
2000年3月29日発行
中央区八重洲2-1
八重洲地下街
TEL0332722888

感謝感激！！ ネーム募集

多数のご応募ありがとうございました。スタッフ一同、悩んだあげく『えぼっく』と決定させていただきました。

(英epoch フランスe poque)時代。特に、それまでとは違った意味をもった時期、段階。と、言うことで私たちが21世紀に向かって新たな飛翔に相応しいと思いました。

新しいことを始めると言うことはすごく大変であることを思い知らされたこの一ヶ月でした。このチラシをみて、『20世紀懐古館』をわざわざ見に来ていただいたこともあり、とても幸せです。続けることに意味があることと信じ、頑張っています。

古書の世界は大変奥深いものがあります。私たちの目で選んだ書物を少しずつご紹介してまいりますので、興味を持ってご覧戴ければ幸いです。

この新しいチャレンジに共感して、『キリンシティ』さんがビールを提供して下さいます。読みたい本を1000円以上買って、ビールをグイと飲み干して下さい。お友達を誘って、<古本談義>も楽しいと思います。

スタッフも変わり、行き届かないこともあるかも知れませんが、誠心誠意対応させていただきますので宜しくお願いいたします。皆様のご来店をスタッフ一同お待ち申し上げております。

本を買って
ビールで乾杯！

キリンシティ八重洲地下街店協賛

ビアキャンペーン

期間 2000年4月1日(土)～30日(日)

金井書店八重洲店・八重洲古書館にて
お買上1000円以上でキリンラガービール
1杯無料券進呈！！

キリンシティ八重洲地下街店のみご利用いただけます。

スタッフのメッセージ

こんにちは。

お彼岸も過ぎて、すっかり春らしくなりました。重い冬のコートもクリーニングに出して、軽やかに季節を感じています。

春と云えば、結婚式のシーズンですね。私も、いわゆる“お年頃”と言われる年齢になり、結婚式の招待状が、ちらほらと舞い込む様になってきました。先日も、そんなパーティーに行ってきた。

大久保駅から程近い、素敵なイタリアンレストランで、ごく親しい友人だけという20人程のささやかな結婚披露パーティーでしたが、とても暖かいものでした。新郎新婦がこまめに席の間を廻り、知らない者同士も自然に会話が弾み、寄り添う二人の姿がとても印象的でした。また、出席者の自己紹介や、友人たちによる新郎新婦の恋愛時代の暴露話、はては二人の今後の家族計画についてなどの話で盛り上がり、おいしい料理とワインに舌鼓を打ちました。

大切な友人の幸せそうな姿を間近で眺めるのは、とても嬉しく、また幸せなことでしたが、反面なんとも言えない寂しさも感じてしまい、なかなか複雑な心境でした。しかし、嘘も建前もない本物の言葉だけで、心から祝福してくれる友人たちに囲まれていた二人のパーティーには、不思議な魔力でもあったのでしょうか。思わず私も、「結婚したいなあ」なんて血迷った事(?)を考えてしまいました(笑)。

残念ながら、今現在はなかなか周りにそんな話はありませんが、近い(遠い?)将来をいつかと夢見るのも、それはそれで楽しい事です。

金井書店八重洲店店長 川上亜衣子

読み終えた本、昔の本をお売り下さい

書物はリサイクルに一番相応しいものです。読み終えて、ただ“積んどく”だけならば無駄です。直ぐにお売り下さい。愛着のある書物は、埃のかからない、日焼けしない処に大切に保管して下さい。

古本屋で買って、古本屋に売ることをまめに行くと、凄く、リーズナブルにたくさん本が読めます。どうぞご活用下さい。

八重洲古書館
RETRO REVALUE RECYCLE

最新情報はインターネットホームページをご覧ください。
<http://www.kosho.co.jp/>

20世紀懐古館

八重洲・銀座・丸の内の100年

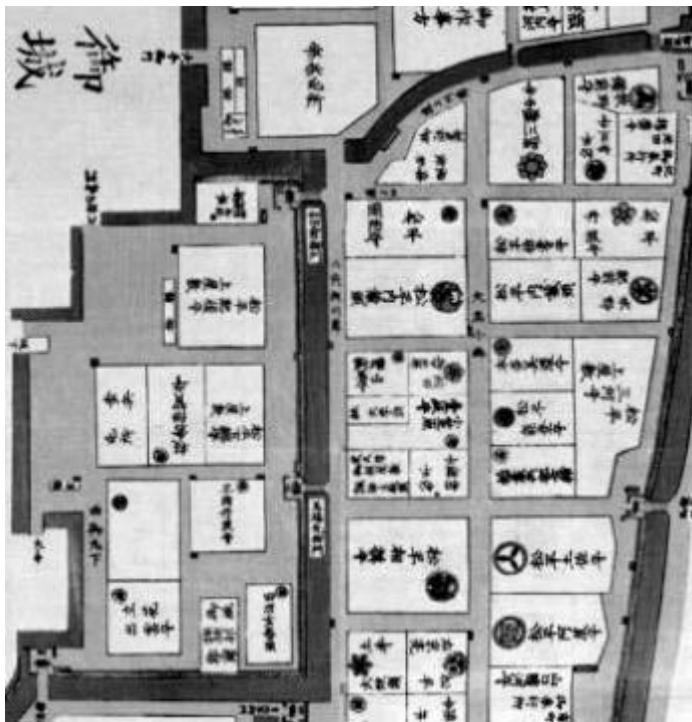
展示場所：金井書店八重洲店 & 八重洲古書館 開催期間：2000年4月1日(土)～4月29日(土)

100年という月日は、遙かな歴史の流れの中では、決して長くはありませんが、私達が普通に生きて行く中では、とても長いといえるのではないのでしょうか。

東京という街は、20世紀というたった100年の間に、2度も焼け落ちてしまいました。1度目は、大正12(1923)年の関東大震災、そして2度目は、昭和19～20(1944～45)年間の、東京大空襲を含む度重なる空襲でした。大政奉還を経て、江戸から東京へと変わり、2度にわたる焦土からの再建を乗り越えて、今日の国際都市“東京”が存在するのです。

では、その100年の間に、“東京”一体どのように変化してきたのでしょうか。私どもに縁の深い八重洲から、東京駅周辺をメインに、その変遷を辿っていきたいと思います。

皆さんは、“八重洲”という地名の由来をご存じでしょうか。その起源は、はるか昔、徳川家康の時代に遡ります。関ヶ原の合戦のあった1600年に、オランダから、一艘の船が漂着しました。“デ・リーフデ号”というこの船に乗っていたのが、ヤン=ヨスタイン氏(後に、耶揚子や彼は、その後家康の信任を得ず。そして、家康より賜った堀端にあったので、その辺りで、八代洲河岸と呼ばれる様変化していったのです。もっ居のこちら側、今でいう丸のは、この辺りを指していたそ地名というのは、歴史を感じます。



ところで、“銀座”といえかべるでしょうか。一流ブライカ、点在する画廊や高級クルの大時計でしょうか。私は、うことと、銀座を愛した、文す。文明開化の頃から、常にれた街である銀座は、人々の”は、次第に成金や軍人、ま化し、故に荷風は、愛する銀て行くのですが、それはまたにその名を冠した地名が数限銀座”という街がいかにかに人々にとって特別な街であったかということが表れているのではないのでしょうか。

東京駅を挟んで、八重洲のちょうど反対側にあたるのが、“丸の内”です。東京を、というより、日本を代表する一大オフィス街です。もともと地方出身の私には、とても不思議に思えるのが、すぐ傍に皇居を臨んでいるということです。時の流れから取り残された様な皇居と、刻々と変化してゆく時代の先端を担うオフィス街が、隣り合わせているという事が、なんとも奇妙だと感じてしまいます。そんなミスマッチも、街の特徴や魅力の一つとなっているのでしょう。

最後に、やっぱり“東京駅”ですね。赤いれんが造りの外観が、なんともノスタルジックで、かわいい東京駅ですが、当初は駅といえば、上野駅でした。が、今では、すっかり電車旅行の中心地として、東京の駅の代名詞ともなっています。また、最近では、丸の内から八重洲までを含む広範囲での再開発が進んでおり、数年後には、今はまた違った顔を見せてくれることでしょう。

こう考えてみると、しみじみと、“東京”という街は、今まで常に変化し続けて来て、また今後21世紀へ向けて更に変貌を遂げて行くんだなあと、思います。それが、より良い進化なのか、それとも坂道を転がり落ちるといった類いの変化なのかは、今の私には分かるべくもありませんが、願わくは、もっと素敵な街になっていって欲しいものです。

さて、今回の20世紀懐古館は、八重洲・銀座・丸の内の100年間の顔を集めてみました。街は、その時代によって、様々な顔を見せてくれます。今まで知らなかった、気付かなかった街の表情を、愉しんで頂ければ、嬉しく思います。

ーステン=フォン=ローデンようす と名乗る)でした。て、外交貿易顧問となりま江戸屋敷が、和田倉門外の一部が、彼の名前にちなんになり、さらに八重洲へとも、和田倉門外とは、皇内の辺りで、当初の八重洲うですが、どちらにしても、させてくれるものだといえ

ば、皆さんはなにを思い浮ソドショップの並ぶ並木通ラブか、それとも、和光ピカフェーの発祥の地だとい豪永井荷風が浮かんで来ま流行の一番先に行く洗練さ憧れでした。その為“銀座た、えせ文化人の溜り場と座から少しずつ足が遠のい別の話。とにかく、日本中り無く存在することにも、“

八重洲古書館

RETRO REVALUE RECYCLE